

## ●基本目標2

### 確かな学力を身に付け、個性や創造性に富む人づくり

#### 施策の目標

●確かな学力を  
はぐくむ

●社会を生き抜く力を  
育てる

#### 2-1 確かな学力の定着

- (1) 学習意欲や学びの質の向上
- (2) 課題に取り組む、よりよい解決を図る児童生徒の育成
- (3) 創意工夫を生かした教育活動の推進
- (4) 読書活動の推進
- (5) 情報教育の推進と充実
- (6) 科学教育の推進
- (7) 発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実

#### 2-2 教職員の指導力向上

- (1) 学力調査の結果を生かした授業改善
- (2) 主体的・対話的で深い学びを実現する授業の展開
- (3) 児童生徒の学びを創り、意欲をはぐくむ教職員の育成
- (4) 教職員のICT※活用指導力の育成

#### 2-3 幼稚園・保育園等・小学校・中学校の連携推進

- (1) 児童生徒の就学における円滑な接続と連携強化
- (2) 高等教育機関との連携推進

#### 2-4 共生社会形成のための特別支援教育の推進

- (1) 児童生徒一人一人の成長に必要な支援の充実
- (2) 支援に必要な体制の整備と学校間連携の推進
- (3) 支援を要する児童生徒の自立と社会参加

#### 2-5 社会的・職業的自立をめざした キャリア教育の推進と拡充

- (1) 目的意識の育成と体系的なキャリア教育の推進
- (2) 体験的な学習活動の推進と地域との連携

※ICT【Information and Communication Technology】…情報通信技術。

**施策の目標** ●確かな学力をはぐくむ  
●社会を生き抜く力を育てる

幼稚園・保育園等・小学校・中学校は、さまざまな教育活動をとおして、子どもたちを心身ともに健全で個性や創造性に富む人として育成する場所です。変化の激しいこれからの社会を主体的、創造的に生きていくためには、幼児教育から、生涯にわたる学習の基盤となる資質や能力をはぐくむことが必要です。各段階の発達課題を踏まえた質の高い教育をめざし、社会の中で個の自立と協働を図るための主体的・能動的な力の育成に努めます。

また、幼児期からの科学教育を推進し、自然を愛する心を育てるとともに、自然の物事や現象についての科学的な見方や考え方を養います。

未来を担う子どもたちが、将来の夢や希望を抱いて、自らの力で未来を切り拓いていくことができるよう、幼稚園・保育園等・小学校・中学校・家庭・地域社会が連携し、豊かな人間性や社会性、自主性をはぐくむ学校教育の推進を図る取組を進めます。

**施策の展開 2-1 確かな学力の定着**

「確かな学力」とは、基礎的・基本的な知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力など含めたものをいいます。

基礎的学力の定着と学力向上を図る取組を推進し、義務教育9年間の「学び」と「育ち」を充実できる効果的な実践を積み重ねていくことが必要です。それぞれの学校の特色を生かし、家庭や地域と情報・課題・目標などを共有しながら、児童生徒の「確かな学力の定着」をめざします。

**施策の方針**

**(1) 学習意欲や学びの質の向上**

- ① 学習意欲の向上を図り、知識・技能を活用する力を育成することで、「確かな学力」の定着を図ります。

**(2) 課題に取組み、よりよい解決を図る児童生徒の育成**

- ① カリキュラム・マネジメント※に基づき、よりよく問題を解決する能力や、問題の解決に向けて主体的、創造的に取り組む力を育成します。

※カリキュラム・マネジメント…学校の教育目標の実現に向けて、教育課程（カリキュラム）を編成・実施・評価し、改善を図る一連のサイクルを計画的・組織的に推進していくこと。

- ② 自分の力で課題を探究し結論を導くことができたという達成感や、自主的に学ぶことの楽しさなどを味わわせ、学習意欲が一層向上するよう指導を工夫します。

### (3) 創意工夫を生かした教育活動の推進

- ① 地域の特性を生かし、教科などの枠を超えた総合的・横断的な学習や、体験的な学習、探究的な活動を行い、課題解決能力をはぐくむ教育活動を推進します。



【国際化についての学習】



【次世代エネルギーについての学習】

### (4) 読書活動の推進

- ① 図書館司書や司書教諭との連携により、児童生徒の主体的、意欲的な学習活動と豊かな感性や情操をはぐくむ読書活動を推進します。
- ② 各教科、特別活動、総合的な学習の時間での調べ学習\*など多様な学習活動が展開できるよう整備を図ります。

### (5) 情報教育の推進と充実

- ① 高度情報化社会において、児童生徒に必要な情報を主体的に収集、処理、発信するなどの情報活用力を身に付けさせ、学力向上につなげます。

### (6) 科学教育の推進

- ① 科学に対する好奇心や探究心をはぐくみ、科学的に思考し、工夫する力を育成します。

### (7) 発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実

- ① 生涯にわたる人間形成や学習の基礎が培われるような幼児教育の質の向上に努めます。

---

\*調べ学習…児童生徒が課題について、図書館を利用したり、聞き取り調査をしたりして結果をまとめること。総合学習の一形態。

## 具体的な取組

### (1) 学習意欲の向上と基礎学力の充実

- ① 児童生徒の興味・関心を引き出し、自ら学ぶ態度を養い、学習意欲の向上に努めます。
- ② 学習の基礎・基本となる知識・技能を確実に習得させ、それを活用し、「読む」「書く」「聞く」「話す」力を育成し「確かな学力」の定着と強化を図ります。

### (2) 思考力・判断力・表現力を高める課題解決型学習の推進

- ① 自ら考えようとする意欲をもち、粘り強く取り組むなど、主体的に学習に取り組む態度を養います。
- ② 問題解決的な学習過程を取り入れ、自ら課題を見つけ、自分なりの見通しをもって解決を図るなど、児童生徒の思考を促し、学び合いができるように教師の働きかけを工夫します。
- ③ 総合的な学習活動においては、児童生徒が主体的に取り組み、自分の考えをまとめ、表現できる学習活動や体験活動を多く取り入れ、探究的な学習となるよう工夫します。
- ④ 児童生徒にこれまで以上に豊かな教育環境を提供し、その成長を支えることができるよう、家庭・学校・地域が連携した土曜学習プログラムを実施します。



【学び合いを大切にした授業】

### (3) 学校図書館を中心とした読書活動の推進

- ① 蔵書を充実し、読書活動に関する児童生徒の興味関心を高める読み聞かせ、図書だより、掲示物の工夫などを行います。

《実施目標》

		平成25 年度	平成30 年度	令和5 年度
学校図書館図書 標準※の達成率	小学校	96.0%	102.5%	105%
	中学校	83.7%	109.8%	110% (当初目標 100%)

- ② 指導計画に基づいた学習コーナーの設置や、調べ学習の実施、学校司書や図書ボランティアによる読書活動などにより、学校図書館を中心とした読書活動を推進します。
- ③ 夏休み中の開館などの弾力的運用により、児童生徒の主体的な学びを支えます。

**(4) 情報活用能力の育成**

- ① 授業で電子黒板・ICT機器の積極的活用を促し、児童生徒の学習意欲と知的好奇心を高めるような教材を整備し、情報教育の推進と充実を図ります。
- ② 課題解決における主体的な情報活用力と情報手段の特性を理解し利用できる情報収集力を育成します。
- ③ プログラミング教育を推進し、情報を整理・分析・判断する力や、プログラミング的思考力を育成します。
- ④ 相手を考えた言葉遣いでの情報交換、ルールやマナーの厳守など、情報モラル・情報発信に伴う責任感を育成します。

**(5) 家庭学習の推進**

- ① 家庭と学校が連携し、児童生徒の「進んで学ぶ力」と「心身の健康」をはぐくむ家庭学習を推進し、「確かな学力」の定着につながるよう努めます。
- ② 家庭学習の習慣化を図り、家庭で予習・復習を中心とした反復学習が行えるような学習活動を工夫します。

---

※学校図書館図書標準…文部科学省が公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、平成5年3月に定めたものである。

《成果目標》

【平成25年度、30年度全国学力・学習状況調査—結果の概要—より】

		平成25 年度	平成30 年度	令和5 年度
「自分で計画を立てて勉強している」 児童生徒の割合	小学校6学年	62.1%	72.9%	75.0% (当初目標 70.0%)
	中学校3学年	46.7%	58.0%	60.0% (当初目標 55.0%)
「家で学校の授業の復習をしている」 児童生徒の割合	小学校6学年	61.0%	72.7%	75.0% (当初目標 70.0%)
	中学校3学年	48.7%	53.1%	55.0%

**(6) 科学学習環境の工夫・充実**

- ① 教職員の理科の指導力・授業力の向上を図ります。
- ② 生活の中にも不思議を発見するなど、児童生徒の科学的な思考力、判断力、表現力などはぐくむ学習環境を工夫します。
- ③ いつでも科学を体験し学習できる場の工夫を図ります。

**(7) 適正な就学前教育の推進**

- ① 生活や遊びといった直接的・具体的な体験をとおして、情緒的・知的な発達、社会性をはぐくむ幼児教育の充実に努めます。
- ② 幼児教育の質の向上を図るため、研修会開催や保育公開をとおして意見交換の場をつくり、教職員の資質向上に努めます。
- ③ 学校入学時における保護者向け説明会などのさまざまな機会をとらえ、子どもの教育に対する家庭の役割が再認識できるようにします。
- ④ 適切な睡眠時間の確保や朝食摂取、礼儀などの家庭における基本的な生活習慣の確立を図るよう家庭に働きかけます。

## 施策の展開 2-2 教職員の指導力向上

児童生徒の学力向上のためには、個々の学習状況に応じたきめ細かな指導を充実させ、授業での学習効果を高めることが求められます。学習の広がりや深まりも含めたより効果的な授業の実現をめざし、授業形態の工夫や教育課程の見直しなど、これまでもさまざまな実践がなされてきています。

しかしながら、児童生徒の学力向上やそのための授業改善など、これからの時代に求められる学校教育を実現するためには、教職員の指導力の向上が不可欠といえます。

### 施策の方針

#### (1) 学力調査の結果を生かした授業改善

- ① 各種学力調査から、児童生徒の学力と学習状況の関係などを分析・検証し、学校での授業改善に向けた取組を進めます。

#### (2) 主体的・対話的で深い学びを実現する授業の展開

- ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力などの育成、学習意欲の向上のための取組を学校全体で進めます。

#### (3) 児童生徒の学びを創り、意欲をはぐくむ教職員の育成

- ① 児童生徒の学習意欲を高め、一人一人に学ぶ喜びや達成感をもたせることができるよう、指導法や教材などの工夫改善を進めます。
- ② 研究推進校での成果を広く共有し、教職員全体の指導力向上を図ります。
- ③ 学校評価や授業評価を基に授業構成力を高めるとともに、わかりやすい授業づくりに努め、生き生きとした教育活動を展開できる教職員を育成します。

#### (4) 教職員のICT活用指導力の育成

- ① ICTを活用した授業の公開などにより実践事例を教職員で共有し、ICT活用指導力を高めるための研修を進めます。



【ICTを活用した授業】



## 具体的な取組

### (1) 津幡町学力調査の実施および学力向上プランの策定

- ① 児童生徒の学力・学習の状況を多面的に分析し、課題を明らかにするとともに、その課題の解決に向けた「学力向上プラン」を各学校で策定します。

### (2) 教職員の授業力を高める授業研究の推進

- ① 校内研修会を定期的に行い、児童生徒の学力や知的好奇心をはぐくむ授業研究を推進します。
- ② 研究推進校を中心として、先進的な実践研究を進めます。
- ③ 授業指導力向上に向けた効果的な方法や体制についての研究成果を、発表会や紀要によって全教職員に発信・共有を行います。



【授業研究の様子】

### (3) 基礎・基本を確実に身に付ける学習指導法の工夫

- ① 少人数指導（チームティーチング<sup>※1</sup>を含む）や習熟度別学習<sup>※2</sup>により、児童生徒の基礎的・基本的学習内容の習得および学習習慣の定着を図ります。
- ② 教材の開発や指導法の改善などの調査研究を実践報告としてまとめ、授業研究データベースとして町内全校に広げるとともに、各学校においても改善を図ります。

### (4) 指導力向上のための研修の充実

- ① 教職員としての専門性や今日的な教育課題への対応力などの向上を図るため、町教育センターや県教育委員会をはじめとする関係機関との連携を生かし、研修の充実を図ります。
- ② 実施した研修については、効果検証などに基づく評価を充実させ、PDCAサイクル<sup>※3</sup>を確立します。



【指導力向上のための研修】

※1）チームティーチング…複数の指導者が役割を分担し、協力しながら授業を行う形式。

※2）習熟度別学習…教科により、児童生徒の習熟の程度に差が生じやすいことを考慮して、それぞれの児童生徒の習熟の程度に応じて、補充的な学習や発展的な学習などを取り入れて行うきめ細かな指導。

※3）PDCAサイクル… Plan/Do/Check/Actionの頭文字を揃えたもので、計画（Plan）→実行（Do）→検証（Check）→改善（Action）の流れを次の計画に生かしていくプロセスのこと。



## (5) 教職員の育成と学校運営機能の強化

- ① 一人一人の実践的指導力や豊かな人間性などを高め、児童生徒の良さを引き出すことができる教職員の資質向上に努めます。
- ② 当面する学校課題の解決や今日的な教育課題を踏まえた校内研修を推進するとともに、教育センターにおける教職員研修の充実を図ります。

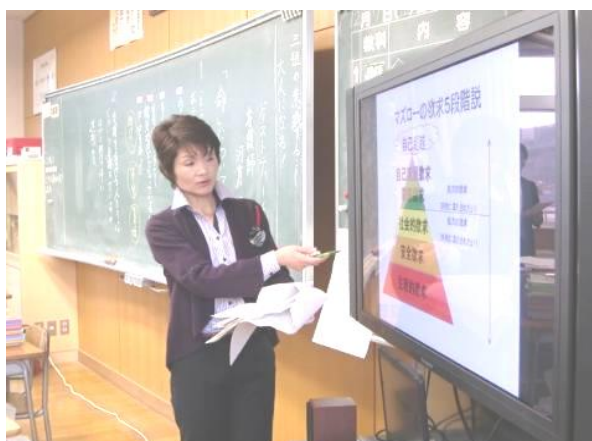


【ミドルリーダー研修会】

- ③ 学校の自己評価や外部評価を取り入れ、特色ある教育活動に組織的に取り組むことができるよう、学校運営機能の強化を図ります。

## (6) 教科指導におけるICTの活用

- ① ICT機器の整備を行うハード面、ICT機器を活用した授業づくりをめざすソフト面の充実に努め、ICT機器を板書や発表などに積極的に活用します。
- ② 教職員のICT活用能力向上と指導法の工夫・改善を図るため、教職員研修を実施します。



【ICTを活用した授業】

## 施策の展開 2-3 幼稚園・保育園等・小学校・中学校の連携推進

町内には、町立中学校2校、町立小学校9校、幼稚園、保育園等があります。これらが共に連携し、園児、児童生徒の健やかな成長を支えることが求められます。

児童生徒の成長を見通し、継続的・発展的に教育を進めて、児童生徒のより良い成長を促すことができるよう、幼稚園・保育園等・小学校・中学校の連携を強化します。

### 施策の方針

#### (1) 児童生徒の就学における円滑な接続と連携強化

- ① 幼稚園・保育園等と小学校が、それぞれの教育課程編成や指導方法の工夫を進めるとともに、園児と児童の交流や教職員による合同研修など、幼保小連携の取組を推進します。
- ② 小学校と中学校が、児童生徒の情報を共有して日頃の指導に生かし、義務教育9年間をととした児童生徒の発達に合った学びを実現するため、小中連携の取組を推進します。

#### (2) 高等教育機関との連携推進

- ① 義務教育以後の高等教育機関と連携した児童生徒の教育活動や、教職員の研究活動を推進します。

### 具体的な取組

#### (1) 幼保小連携事業の推進

- ① 小学校区の幼稚園・保育園等と連携しながら「子どもの育ちと学び」をつなげる教育活動を進めます。



【幼保小連携事業の様子】

- ② 幼保小連絡会を中心に、園児と児童の交流会、教職員の研修会、公開授業・公開保育などに取り組み、相互理解を図ります。
- ③ 小学校入学時における子どもや保護者の心理的な負担を少なくするために、就学時健診の場や教育センターだよりなどを活用して、大まかな学校生活の過ごし方などを紹介し、就学へのなめらかな接続を図ります。

幼稚園・保育園から小学校へ就学を迎えたお子様と保護者のために...

**もうすぐ一年生!**

幼稚園・保育園・小学校では、「幼保小連携推進事業」として、就学前教育（幼児教育）と小学校教育のつながりを強め、子どもと保護者のために、

- ・ 子どもの育ちを大切に育てる
- ・ 適切な指導・支援を行う
- ・ 子どもの育ちを大切に育てる
- ・ 適切な指導・支援を行う

発行・津幡町教育委員会 教育センター  
津幡町教育委員会  
住所：津幡町北平路3丁目1番地  
電話：076-288-6700

**ある小学校1年生の一日と目標表**

※学年により、多少異なります

時刻	活動	目標
8:00	登校	安全に登校し、校舎や校庭の環境を慣らす。
8:10	朝の会	挨拶を交わし、朝の決まりごとを確認する。
8:20	朝礼	礼儀正しく挨拶をする。
8:30	1 授業	授業の進め方を理解し、積極的に参加する。
8:35	2 授業	授業の進め方を理解し、積極的に参加する。
9:15	3 授業	授業の進め方を理解し、積極的に参加する。
9:25	4 授業	授業の進め方を理解し、積極的に参加する。
10:10	5 授業	授業の進め方を理解し、積極的に参加する。
10:25	6 授業	授業の進め方を理解し、積極的に参加する。
11:20	7 授業	授業の進め方を理解し、積極的に参加する。
11:30	8 授業	授業の進め方を理解し、積極的に参加する。
12:15	9 授業	授業の進め方を理解し、積極的に参加する。
12:55	10 授業	授業の進め方を理解し、積極的に参加する。
13:25	11 授業	授業の進め方を理解し、積極的に参加する。
13:40	12 授業	授業の進め方を理解し、積極的に参加する。
14:30	13 授業	授業の進め方を理解し、積極的に参加する。
14:50	14 授業	授業の進め方を理解し、積極的に参加する。

※定時下校：15:50

なまよタイムでは、学年交流を行っています。地域のなかと一緒に授業をすることもあります。

生活科の学習では、自然や社会のかわりを知ります。豊かな体験学習を大切にしています。

コンピュータを使った授業を行っています。

【もうすぐ一年生 リーフレット】



## (2) 小中連携事業の推進

- ① 各中学校の小中連携担当者が中心となり、町学校教育研究会とも連携しながら、小中学校の連携・交流を深めます。
- ② 中学校生活の不安解消や心の準備につながる活動を推進します。
- ③ 部活動体験、児童生徒の交流、教師間の交流、中学校教師による出前授業などを実施します。
- ④ 小学校卒業から中学校入学につながる取組や教育活動において、教職員の相互理解を進め、9年間を見通した教育実践が生かされるよう努めます。
- ⑤ 生活習慣の確立に向けて、挨拶や礼儀作法などの基礎を身に付けさせる教育活動を推進します。また、小中連携事業・家庭学習のすすめのリーフレットなどを活用し、保護者への理解・協力を呼びかけます。

### 小学校と中学校でつながる教育

津幡町小中連携推進事業  
平成26年3月  
津幡町教育委員会・津幡町学校教育研究会

津幡町では、小学校から中学校へ進学する際の課題（心理的不安や学習環境の変化、学習方法の段階など）を解消し、9年間を見通した指導実践により、確かな学力の定着や規範意識の醸成、豊かな心の育成を図ることを目的に、津幡町小中連携推進事業を行っています。

**Q** 津幡町の中学校区について教えてください。

**Q** 小中連携推進事業では、どのようなことをするのですか？

**Q** 小中連携推進事業を進めるとどのような成果が期待できますか？

**Q** 小学校・中学校生活を充実したものとすると、家庭ではどのようなことに気を付ければよいのでしょうか？

- ・津幡町には津幡中学校と津幡南中学校、2つの中学校があります。
- ・津幡中学校区は、津幡小学校、太白台小学校、荻野小学校、英田小学校、刈安小学校、新野台小学校です。
- ・津幡南中学校区は、中東小学校、栗南小学校、井上小学校です。
- ・児童生徒の交流
  - \* 小学校6年生が中学校の部活動体験
  - \* 中学校3年生が小学校のPTAスクールに協力
  - \* 中学生在小中学校のあいさつ運動に参加
  - \* 中学校入学説明会
- ・先生との交流
  - \* 相互授業参観・合同研修会
  - \* 情報交換・共有
- ・9年間を見通した指導体制の確立
  - \* 中学校の先生による小学校への出前授業
  - \* 学習のきまりや生活のきまりなどをそろえる
  - \* 「家庭学習のすすめ」を作成・配布
- ・児童生徒の意欲の向上
  - \* 学力の向上
  - \* 不登校やいじめなどの未然防止など
- ・小学校・中学校が進捗することで、児童一人一人の理解を深めることができ、個に応じた指導や支援ができるようになります。また、中学校生活を知る機会となり、中学校生活に対する期待を育むことができます。中学生にとっては、自己を振り返る機会となり、自主性を育むことができます。
- ・早寝早起きをする、朝食をきちんと食べるなど規則正しい生活リズムが子どもの生活を充実させます。
- ・睡眠と進捗を決めて家庭学習を習慣化させましょう。小学校の目安は10分×学年以上、中学校の目安は1・2年が90分以上、3年が120分以上です。
- ・身のまわりや社会の出来事（ニュース）に目を向けるように働きかけましょう。
- ・読書に親しみ、本との出会いを大切にしましょう。
- ・子どものがんばりを褒めがさずに、本気でほめましょう。
- ・わからないこと、困ったことは、遠慮せずに先生に相談しましょう。

**◆出身小学校へ中学3年生が学習ボランティア◆**  
夏休みに、のべ37名の中学3年生が、出身小学校のPTAスクールの学習支援、本道教育指導の支援を行いました。小学生からは、「先輩のおかげで算数がわかるようになった」「英語を教えてくださいってとっても楽しい」と感謝の言葉が届いています。中学3年生にとっては、これからの自分の学習の励みにもなるものと思います。（津幡中）



**◆出身小学校へ中学生があいさつ運動◆**  
中学3年生15名が、各校道中に出身小学校に立ち寄り、朝の「あいさつ運動」を行いました。小学生はなつかしい先輩の姿に元気なあいさつをしていました。小学生も小学生の元気さに刺激をうけたようです。（津幡南中）



**◆小学6年生が部活動体験◆**  
部活動を体験し中学校への準備を高めることを目的とし、夏休みに部活動体験を実施しました。小学生はあらかじめ配布されたメッセージをみて、自分で体験したいと思う部活動を決め、2つの部活動体験をしました。小学生からは、先輩たちが楽しく遊してくれたこと、ヘア活動の部1人だった時にすべにかけつけてくれたことに対して感謝の気持ちが寄せられました。（津幡中・津幡南中）

☆中学生からのメッセージより☆  
「自分がとってもいい経験になったし、先輩をみてとてもいい経験になった。がんばらなきゃいけないです。」  
「今までの体験、はやく中学生になりたいってみんなが思うと思います。楽しみに期待してほしいと思います。」

**◆ネットトラブルの危険性を指導しています◆**  
小学校でも、中学校でも、ケータイ・スマートフォン・インターネットのマネーや危険性を指導しています。中学校の先生が小学校で授業を行った時、小学生と中学生の保護者が一緒にネットトラブルの現状について、専門家から話を聞く機会を設けたりしています。子どもたちがネットトラブルに巻き込まれないように、小中の連携だけでなく家庭との連携が重要です。

**◆ご家庭でも、ケータイ・スマートフォン・インターネットの危険性について、考えてみてください!!**



**◆中学校の先生による出前授業◆**  
3学期には小学生が中学校の先生による専門的な授業を体験しました。中学校の授業に対する不安を少しでも減らすことができたのではないかと思います。（津幡中・津幡南中）



【小中連携リーフレット】

## (3) 高等教育機関などと連携した教育の推進

- ① 児童生徒の学力の向上や体験活動の充実を図るため、石川工業高等専門学校や県立津幡高等学校と連携した事業を企画していきます。

- 33 -

## 施策の展開 2-4 共生社会形成のための特別支援教育の推進

子どもの成長は、それぞれの発達段階や学びの場で区切られているものではなく、連続しています。一人一人のニーズに応じた教育を実現するためには、乳幼児期から中学卒業後まで継続的に支援できる体制をつくることや教育にかかわる教職員の実践的指導力を向上させることが必要です。

園児や児童生徒の抱えるさまざまな問題に適切に対応できる、きめ細かな支援や、学校間の連携を推進します。

### 施策の方針

#### (1) 児童生徒一人一人の成長に必要な支援の充実

- ① 一人一人の児童生徒のニーズに応じた一貫した教育的支援を進めるため、支援にかかわる者すべてが共通理解のもとに指導にあたります。

#### (2) 支援に必要な体制の整備と学校間連携の推進

- ① 支援を要する児童生徒への適切な支援の充実を図るため、特別支援教育支援員を含めた教職員体制の整備を進めます。
- ② 幼稚園・保育園等から小学校、中学校へと適切な支援が引き継がれるよう、個別の教育支援計画や支援シートを活用し、ネットワークの構築を図ります。

#### (3) 支援を要する児童生徒の自立と社会参加

- ① 保健・医療・福祉などの関係機関との連携強化を図り、将来の社会参加を見据えた支援を推進します。

## 具体的な取組

### (1) 指導の充実と個別の教育支援計画などの活用

- ① 個別の教育支援計画<sup>※1</sup>および個別の指導計画<sup>※2</sup>を作成し、支援に生かします。
- ② 児童生徒の抱えるさまざまな問題に適切に対応できるきめ細かな指導・支援を行い、個別の教育支援計画で引き継ぎます。
- ③ 個別の指導計画や支援シートを活用し、一人一人に応じた指導の充実に努めます。

### (2) 特別支援教育における研修の推進

- ① 各学校の特別支援教育委員会<sup>※3</sup>の充実や、特別支援教育コーディネーター<sup>※4</sup>の養成などにより、一人一人の子どもに応じた支援や教育内容を充実します。
- ② 町教育センターを中心とした研修により、幼稚園・保育園等も含めた特別支援教育にかかわるすべての教職員の実践的指導力の向上を図ります。

### (3) 幼稚園・保育園等・学校訪問の継続実施

- ① 町内すべての幼稚園、保育園等、小中学校を訪問し、支援を要する児童生徒の状況を早期に把握するよう努めます。
- ② 教職員との連携により、就学前からの一貫した特別支援教育体制を築き、適切な指導につなげます。
- ③ 母子保健部署と連携し、教育相談体制の充実を図るとともに、小学校入学を控えた幼児をもつ保護者の不安や疑問の解消につなげます。
- ④ 指導主事、学校サポート指導員などが学校訪問を継続的に実施します。

---

※1) 個別の教育支援計画…子ども一人一人のニーズを把握し、医療などの関係機関と連携を図りつつ、学校卒業後まで含んだ長期的な視野に基づいて立てた個人の支援計画。

※2) 個別の指導計画…学校における教育課程や指導計画を踏まえ、教育的ニーズに対応しつつ教育内容や教育方法を盛り込んだ個別の計画。

※3) 特別支援教育委員会…校長のリーダーシップの下、全校的な支援体制を確立し、発達障がいを含む障がいのある児童生徒の実態把握や支援方策の検討等を行うため、校内に設置された特別支援教育に関する委員会。校長、教頭、特別支援教育コーディネーター、教務主任、生徒指導主事、通級指導教室担当教員、特別支援学級教員、養護教諭、対象の児童生徒の学級担任、学年主任、その他必要と思われる者などで構成されている。

※4) 特別支援教育コーディネーター…各学校における特別支援教育の推進のため、主に、校内委員会・校内研修の企画・運営、関係諸機関・学校との連絡・調整、保護者からの相談を受ける役割を担っている。



## 施策の展開 2-5 社会的・職業的自立をめざしたキャリア教育の推進と拡充

現代社会においては、児童生徒に夢や目標をもたせ、学ぶことや働くこと、生きることの尊さ、大切さを実感させ、学ぶ意欲を向上させることが大切です。さまざまな職業にかかわる人々や企業、経営者、地域の方々の支援を得て、職場・職業体験を実施し、社会的・職業的自立をめざした活動を推進します。

### 施策の方針

#### (1) 目的意識の育成と体系的なキャリア教育の推進

- ① 働くことの意義や尊さを理解し、明確な目的意識と社会の責任ある一員としての自覚を持って人生を切り拓くことができる力をはぐくみます。
- ② 幼児期から小中学校までの連続したキャリア教育を推進し、発達段階を踏まえながら、社会的・職業的自立に必要な能力や態度を育成します。

#### (2) 体験的な学習活動の推進と地域との連携

- ① 教科、科目などの教育活動全体を通じたキャリア教育を推進するとともに、体験的な学習を日々の活動に積極的に取り入れます。
- ② 地域社会や地元の企業などとの連携・協力により、多様で幅広いキャリア教育を推進します。



【職場体験の様子】



【働く人に学ぶ会での様子】

## 具体的な取組

### (1) 幼児期におけるキャリア教育の推進

- ① 働く人や高齢者など、自分の生活に関係の深い地域の人々とのふれあいや交流を通じて、人とかかわることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができる教育を行います。
- ② 幼児期から社会での役割を感じ、子ども自身が役に立つ喜びを味わえるように、家庭でできる手伝いを積極的に取り入れていく大切さを保護者へ働きかけていきます。

### (2) 小中学校におけるキャリア教育の推進

- ① 総合的な学習の時間や道徳で、地域で働く多くの人と交流します。
- ② 働くことや夢を持つことの大切さや、社会生活の中で人々が果たしている役割について理解を深める教育を行います。
- ③ 職場体験や地域の人材、技能職者を招いての職業講話などのプログラムを実施します。
- ④ 修学旅行を活用したさまざまな施設や企業訪問などの実施を推進し、より広い視野でさまざまな職業、生き方を学ぶ機会を充実させていきます。
- ⑤ 仕事に対する意識や自覚、将来の生活や進路などについて考えを深める教育を行います。
- ⑥ 小中9年間のキャリア発達をつなぐためのキャリアパスポート※を作成します。



【職場体験の様子】

※キャリアパスポート…小学校入学から高校卒業までの記録を学年・校種を超えて引き継ぎ、児童生徒が学びの振り返りや見通しに生かすもの。